

新・町立真室川病院改革プラン 点検・評価報告書

令和3年3月

町立真室川病院

はじめに

平成 29 年 3 月に策定した「新・町立真室川病院改革プラン」は、「経営の効率化」による数値目標に対する達成評価に加え、「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」の項目も新・改革プランに新たに取り入れたことで、地域医療構想における高度急性期・急性期病床が過剰、回復期病床が不足する課題の解決をすべく、最上構想区域内の基幹病院である県立新庄病院をはじめとした医療機関の動向を注視しながら、町立真室川病院の病床数や病床機能の適正化を目指し、役割を明確化していくものである。

については、町立真室川病院の自己評価にとどまらず、有識者及び各関係機関職員、町民等で構成される「新・町立真室川病院改革プラン評価委員会」による客観的視点における評価を行い、病院経営の安定化による持続可能な経営を確保するものである。

本年における評価は、令和元年度実績及び令和 2 年度見込みに対する評価について報告するものである。

点検・評価

第 1 新・町立真室川病院改革プランに係る各項目に対する評価

1. 地域医療構想を踏まえた役割の明確化

新・改革プラン概要・項目

円滑な在宅医療への移行を進めるため、急性期病床から地域包括ケア病床への一部転換、患者の動向を見ながら縮小を含めた病床規模の適正化を検討

病院総括・成果等

令和元年度

近年の入院患者における高齢化や認知症患者の増等の状況から、現在の一般病床の一部を地域包括ケア病床に転換し、急性期病床を残しつつ病床機能報告をもって回復期機能へ移行するものである。尚、病床数については病床利用率が高い状況にあることから削減はしないこととする。尚、転換病床数は要件を満たし、かつ、当院にとって最善の病床数を今後検討する。

令和 2 年度

「現在の一般病床の一部を地域包括ケア病床に転換、また急性期から回復期へ移行する。病床数は削減しない。」との昨年度当委員会で承認を得た内容に基づき、今年度の病床機能報告にて「回復期」と報告した。このことで厚生労働省より公表された「再編・統合が必要な病院」の対象から外れることとなる。尚、地域包括ケア病床の転換については、新型コロナウイルスが落ち着くまで（令和 4 年 4 月転換見込み）の間は見送ることとした。

評価・助言

前年度の承認事項。新型コロナウイルスの影響により地域包括ケア病床への一部転換は先送りとなつたが、準備を整えておくこと。尚、転換においてはシミュレーションや十分に協議を重ね、また他機関からの助言等も必要である。準備の経過、転換数等は、当委員会に報告すること。

2. 経営の効率化

(1) 人材確保

新・改革プラン概要・項目

医師確保 各関係機関に医師派遣の働きかけを行う
研修医等の積極的な受け入れ

病院総括・成果等

令和元年度

山形県に対し、県立新庄病院の現行派遣時間数の継続依頼
研修医 4名

令和2年度

山形県及び山大付属病院に対し継続依頼
山大医師派遣状況 (月)消化器内科 (水)循環器内科
(土日祝)整形外科、内科
県立新庄病院 (火)整形外科
(木)整形外科、内科
研修医 2名

評価・助言

医師標準数の充足率 100%に達していないことの不利益を整理し、今後も引き続き医師確保対策に全力を挙げること。

(2) 収益の増加

新・改革プラン概要・項目

入院基本料 13 対 1 の堅持

病院総括・成果等

令和元年度 継続

令和2年度 継続

評価・助言

継続して取り組み、サービスの維持及び収益の確保に努めること

※「13 対 1」とは患者 13 名に対し看護師 1 名の配置体制で、入院基本料収入の安定確保が見込めます。

新・改革プラン概要・項目

病床利用率の向上

病院総括・成果等

令和元年度 病床利用率 80.0%

令和2年度 病床利用率 77.6%（2月末現在）

評価・助言

効果的な利用を行うこと。また、新型コロナの影響による低下などどうか注視すること。

新・改革プラン概要・項目

未収金対策

病院総括・成果等

令和元年度

患者未収金 9,375,504 円

・不納欠損処理 なし

令和2年度

患者未収金 9,103,730 円（年度末見込み）

・不納欠損処理 なし

評価・助言

高額な未納者に対する外部委託等も検討すること。また、クレジットカード払いは効果的であるが、手数料負担部分も注意しながら推進を図ること。

新・改革プラン概要・項目

CT・MRI・内視鏡稼働向上

病院総括・成果等

令和元年度 使用件数 CT 1235 件 MRI 847 件 内視鏡 496 件

令和2年度 使用件数 CT 803 件 MRI 701 件 内視鏡 413 件（2月末現在）

MRI 更新に係る検討委員会立ち上げ準備

評価・助言

今後も引き続き効果的な稼働を行うこと。また機器の更新においては、地域医療構想の機能分化における役割分担を考慮したうえで、十分に検討し進めること。尚、MRI 検討委員会の内容については、当委員会に報告すること。

新・改革プラン概要・項目

査定減の原因分析

病院総括・成果等

令和元年度 継続 査定額 3,187,977 円 増減△1,649,970 円（前年比）

令和2年度 継続 査定額 2,638,078 円 増減△ 549,899 円（前年比）

評価・助言

H30は一時的に増えたが、減点抑制の効果は十分あると考える。継続して分析を行うこと。

新・改革プラン概要・項目

新たな施設基準届出

病院総括・成果等

令和元年度 検体検査管理加算（I） 外来迅速検体検査加算

令和2年度 医師事務作業補助体制加算2 薬剤管理指導料

評価・助言

積極的な算定環境の整備と定期的な点検・評価が必要である

新・改革プラン概要・項目

スタッフ接遇

病院総括・成果等

令和元年度 繼続

令和2年度 繼続（声掛け、混雑時のイス出し）

評価・助言

待ち時間が長いような患者に対し、スタッフから積極的に声掛けを行うこと。また、外部接遇講師によるセミナーの開催等も検討すること。

新・改革プラン概要・項目

情報発信

病院総括・成果等

令和元年度 8月にホームページの開設・公開 アクセス数 251.1人/月

令和2年度 アクセス数 374.9人/月

評価・助言

アクセス数が伸びている。日常的な更新を心掛け、人材の確保につなげること。また、院内で開催している研修、院内広報の紹介も情報発信してみてはどうか。

新・改革プラン概要・項目

新型コロナウイルスへの対応

病院総括・成果等

令和元年度

令和2年度 R2.11.1より新型コロナウイルス感染症診療・検査医療機関の指定を受け、当検査を行っている。また、4月から開始予定のコロナワクチン接種の準備を進めている。

評価・助言

もっと新型コロナウイルスワクチン接種に関する情報発信を行うこと。

(3) 経費節減

新・改革プラン概要・項目

電子カルテ導入効果の検証

病院総括・成果等

令和元年度 項目削除

令和2年度 「電子カルテ導入効果の検証」に修正

・効果資料（資料5）・待ち時間分析（資料6）

評価・助言

導入の効果において、サービスの向上につながっているか検証が必要。また、待ち時間の測定において、どの部分で時間が多くかかっているのか、詳細の調査が必要。尚、導入当初より待ち時間は改善されている。さらに待ち時間の短縮を目指し、質の高い医療の提供を心がけること。

新・改革プラン概要・項目

経費、材料費コスト削減

病院総括・成果等

令和元年度 貸借料及び委託料に係るリストによる前年対比

令和2年度 貸借料及び委託料に係るリストによる前年対比

評価・助言

使用された医材と算定された医材の突合せ等による、コスト算定漏れ等の検証も効果的かと思われる。また、前年度との比較分析を行い、経費の節減に努めること

新・改革プラン概要・項目

ジェネリック医薬品使用推進

病院総括・成果等

令和元年度 後発医薬品使用加算1継続 利用率 93.40 % (R1 平均)

令和2年度 後発医薬品使用加算1継続 利用率 92.33 % (2月までの平均)

評価・助言

すでに高い数値であるが、これ以上の推進を図ることが可能なのか。今後違う表現が必要。

新・改革プラン概要・項目

光熱水費、消耗品費の削減

病院総括・成果等

令和元年度 電気使用量に関し、本年は暖冬のため昨年に比べ大きな変動はない。
重油使用量は減少

令和2年度 R3 の LED 照明、新電力導入に向けた業者聞き取り、調査

評価・助言

新電力の導入について、現在の契約と十分に比較検討し、最適な方法を選択すること。
また、エアコン更新等による影響を今後分析すること。

(4) 今後の診療所のあり方**新・改革プラン概要・項目**

診療所運営は継続しつつ地域包括ケアシステム構築と在宅医療機能の充実

病院総括・成果等

令和元年度 患者数 1,426 人

令和2年度 患者数 1,128 人（2月末現在）

評価・助言

役割分担、地域ニーズ、費用における分析・調査が必要。

3. 再編・ネットワーク化**(1) 二次保健医療圏ネットワーク化****新・改革プラン概要・項目**

県立新庄病院を中心に役割分担を明確にし、連携の強化・情報の共有化を図る

病院総括・成果等

令和元年度 紹介率 12.1% 逆紹介率 24.8%

令和2年度 紹介率 18.5% 逆紹介率 24.9%（2月末現在）

評価・助言

町民に不便を感じさせないシステム構築が必要。また、引き続き連携の強化を図ること

(2) もがみネット**新・改革プラン概要・項目**

もがみネット活用による医療連携の強化

病院総括・成果等

令和元年度 登録件数 10 件

令和2年度 登録件数 3 件

評価・助言

情報の共有・連携強化を図るために積極的に登録を促すこと。

(3) 介護保険施設との連携

新・改革プラン概要・項目	
地域医療構想を踏まえた介護保険施設等との連携	
病院総括・成果等	
令和元年度	施設併設による連携
令和2年度	地域包括ケア病床への転換に向けた連携の強化（進捗等の状況共有）
評価・助言	
引き続き、連携の強化を図ること。	

4. 経営形態の見直し

新・改革プラン概要・項目	
現状を継続しつつも、地方公営企業法の全部適用との比較検討 地域医療連携推進法人も視野に入れて方向性を検討	
病院総括・成果等	
令和元年度	調査中
令和2年度	「地域医療連携推進法人」は、当院だけで進められることではなく、また現時点では、現実的ではないためこの部分を削除
評価・助言	
当院にとってどの方法が最善なのか調査結果を整理すること。	

第2数値目標の達成状況及び第3経営効率化進捗状況

【数値目標の達成状況】 (単位：%、人)

	元年度計画①	元年度決算②	達成率	達成状況	地方公営企業年鑑
経常収支比率	100.2	100.4	100.2	A	103.0
医業収支比率	75.8	75.9	100.1	A	79.2
職員給与費対医業収益比率	55.2	62.6	88.2	C	70.9
病床利用率	80.0	80.0	100.0	A	70.0
入院患者数	16,108	16,096	99.9	B	17,885
外来患者数	51,625	47,392	91.8	C	48,545
紹介率	11.0	12.1	110.0	A	
逆紹介率	16.5	24.8	150.3	A	

※達成状況（A：目標達成 100%以上 B：一定の実績 35%以上 C：目標未達成 95%未満）

※参照 平成30年度地方公営企業年鑑 50床以上100床未満の黒字病院指標

数値目標に対する評価

区分	達成状況
A	目標達成 100%以上
B	一定の実績 95%以上
C	目標未達成 95%未満

令和元年度における数値目標の達成状況は半数の評価はAの「目標達成」だが、入院患者数はBの「一定の実績」、職員給与費対医業収益比率及び外来患者数については、Cの目標未達成であったので、今後は目標達成に向け、特に未達成の分析を行い新・改革プランに沿った取組みを行うこと。

総合評価

最後にまとめとして、昨年度の「地域包括ケア病床に一部転換し、急性期病床を残し回復期へ移行する」旨の当評価委員会での承認及び最上地域保健医療協議会（地域医療構想調整会議）での合意のもと、今年度の病床機能報告において病床機能を「回復期」へ移行したことは、当新・改革プランにおける最大の課題である「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」において、概ね達成できたと評価する。尚、今年度は新型コロナウイルスの影響により、地域包括ケア病床への一部転換は見送ることとなつたが、転換に関しては十分に協議を重ね、その経過については評価委員会に報告すること。

医師確保について、平成31年4月の常勤医師の採用により医療法で定める医師標準数は以前に比べ改善はされたものの、まだ100%には達していない状況にあるので、今後も引き続き各関係機関との連携を密にし、全力で取り組む必要がある。また、看護師、医療スタッフ等人材の確保にも取り組むこと。

本来であれば本年が当新・改革プランの最終年度であり、総括を行うところであるが、国からの新たなガイドラインが提示されておらず、当改革プランの期間を延長することとなったことから、現状にあった改訂を行いながら、引き続き当改革プランの実行に取り組むこと。今年度においては、令和2年3月以降、世界的に新型コロナウイルスが猛威を振るい、日本においても感染が拡大したこと、その影響は町立真室川病院にも波及し、これまでにない非常に大変な経営状況にあったと思われる。山形県において4月から高齢者に対するワクチン接種が始まるとの報道がなされているものの、まだまだ先が見えない状況はこれからも当面続くことが予想される。このような状況においても、町立真室川病院は当町及び近隣町村における基幹的病院として持続して地域医療を支えなければならなので、この状況を乗り越え、また、当評価委員会における各委員からの評価・助言を踏まえ、成果につなげられるよう取り組むこと。そして、町立真室川病院が安定した病院経営のもと、地域住民に対する充実した医療サービスの提供を期待する。